

平成28年 2月 4日

## 論文審査結果の要旨

専攻 入学年度	資源環境科学 平成22年度(10月)入学	専攻	氏名	饗場 葉留果
論文題目	天然記念物ニホンヤマネの微小生息環境選好と生息地保全に関する研究			
審査委員 職名及び氏名	主査	教授	森田 哲夫	
	副査	教授	芦澤 幸二	
	副査	教授	續木 靖浩	
	副査	教授	川末 紀功仁	
	副査	准教授	石田 孝史	
審査結果の要旨(800字以内)				
<p>国指定の天然記念物の樹上性げっ歯類ニホンヤマネは活動季の生活の大半を森林に依存するが、本種の休息場所に関する詳細な知見はない。一方で、生息環境の破壊が進行する中、有効な保全策を立てるために本種の生態を解明することが急務となっている。そこで、本研究ではヤマネの活動季の休息場所について野外調査を行い、微小生息環境選好の観点から好適な環境条件を検討した。</p> <p>3頭のヤマネにテレメータを装着し野外での行動を追跡したところ、昼間の休息場所として朽ち木を多く利用することが明らかになった。さらに利用部位をより細かくカテゴリー化した、活動季の休息場所の空間選択調査では、ヤマネが休息場所として森林内の隙間や枯死部など、他の樹上性哺乳類があまり利用しない場所を有効に活用していることが示された。また、ヤマネの繁殖巣36個の内、35個が樹上にあり、テングス病の病巣部位に作られていた。しかし、地上に設けられ繁殖巣も1例あった。平均的な巣の高さは、<math>1.85 \pm 0.88\text{m}</math>で、その大きさは、<math>11.0\text{cm}</math>(長径) <math>\times</math> <math>8.7\text{cm}</math>(短径) <math>\times</math> <math>9.6\text{cm}</math>(高さ)であった。巣は円形、または楕円形で、主要な巣材である樹皮が編み込まれていた。壁面にはしばしばコケを、中にはサワフタギの細い樹皮を使用した。このように繁殖巣の材料にも生活の中心が樹上であることが反映されていた。</p> <p>本研究より、樹木はヤマネにとって重要な休息場所であると共に、非繁殖期では朽ち木や隙間などの空間を有効に利用していることが分かった。また、繁殖期では、巣材を利用した巣を形成することから巣材を採取できる環境が必要で、植物病の病巣さえも重要であることが示唆された。従って、ヤマネにとっての好適な生息環境とは、様々な状態にある樹木が並存する環境であると言えた。</p> <p>さらに、公聴会での発表および質疑応答も適切であり、本審査委員会は論文審査および最終試験に合格したと判定する。</p>				